

【令和元年度評価】中項目ごとの検証・確認における論点整理

自己評価の区分		判断の目安
IV	年度計画を上回っている	計画の実施状況が100%超
III	概ね年度計画どおり実施している	計画の実施状況が90%超100%以下
II	年度計画を下回っている	計画の実施状況が60%超90%以下
I	年度計画を大幅に下回っている	計画の実施状況が60%以下

地方独立行政法人岐阜県立多治見病院

項目 No.	R1 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証											
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)										
01	<p>1 高度医療機器の計画的な更新・整備</p> <p>新中央診療棟整備に向けた高額医療機器の更新・整備については、平成30年度に実施した要望調査、部門ヒアリングにおいて選定・ランク付けした医療機器リストを精査し、新棟整備後、円滑に稼働できるよう導入時期、導入手法等も含め、より具体的な整備計画を策定する。高額医療機器以外の医療機器（什器を含む）とあわせて年度内の計画策定を目指す。</p>	<p>1 高度医療機器の計画的な更新・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新中央診療棟の開院に向けた医療機器の整備について、各部門における医療機器の配備状況及び要望に基づいて整備計画を策定しており、各部門へヒアリングを実施し、導入時期、導入手法等も含めたより具体的な計画に適時更新を行った。 ・令和元年度は、高度医療機器のうち特に老朽化が激しく診療に支障をきたす医療機器を中心に整備を行った。 ・高度医療機器などの整備にあたり、ベンチマークシステムを活用し、適正価格で購入できるように努めた。 <p>【更新・整備した主な機器】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機器名</th> <th>整備目的・用途</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>デジタルガンマカメラシステム 1式</td> <td>機器老朽化による更新。放射性医薬品を用いた画像診断装置で機能・形態画像を診断に提供する。</td> </tr> <tr> <td>X線CT撮影装置 1式</td> <td>診療機能充実のため増設。CT画像を診断に提供する。</td> </tr> <tr> <td>移動型X線透視撮影装置 1式</td> <td>診療機能充実のため増設。手術中に広い視野でX線透視画像を得ることができ、的確で安全な手術を行うことができる。</td> </tr> <tr> <td>心臓用超音波診断装置 1式</td> <td>機器老朽化による更新。心臓機能解析機能を有した装置で、診断に有益な画</td> </tr> </tbody> </table>	機器名	整備目的・用途	デジタルガンマカメラシステム 1式	機器老朽化による更新。放射性医薬品を用いた画像診断装置で機能・形態画像を診断に提供する。	X線CT撮影装置 1式	診療機能充実のため増設。CT画像を診断に提供する。	移動型X線透視撮影装置 1式	診療機能充実のため増設。手術中に広い視野でX線透視画像を得ることができ、的確で安全な手術を行うことができる。	心臓用超音波診断装置 1式	機器老朽化による更新。心臓機能解析機能を有した装置で、診断に有益な画	IV		医療スタッフを確保できており、医療機器の整備も計画的に行っている点は評価できる。
機器名	整備目的・用途														
デジタルガンマカメラシステム 1式	機器老朽化による更新。放射性医薬品を用いた画像診断装置で機能・形態画像を診断に提供する。														
X線CT撮影装置 1式	診療機能充実のため増設。CT画像を診断に提供する。														
移動型X線透視撮影装置 1式	診療機能充実のため増設。手術中に広い視野でX線透視画像を得ることができ、的確で安全な手術を行うことができる。														
心臓用超音波診断装置 1式	機器老朽化による更新。心臓機能解析機能を有した装置で、診断に有益な画														

項目 No.	R1 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																				
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)																			
			像・結果を提供する。																					
	<p>2 医師、看護師、コメディカル等の医療従事者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護職員修学資金貸付などの支援制度を継続実施する。 ・ガイダンスへの参加、学校訪問等を積極的に行うとともに、インターネットや新聞などの広報媒体を活用し、職員の募集活動を実施する。 ・定年を向かえた医師、看護師等のうち、病院経営に寄与すると認められる職員の再雇用を実施する。 ・大学医局との連携や代務医の招聘などにより、引き続き医師確保に努める。 ・人材紹介会社を活用し、医師の増員を図る。 ・岐阜大学医学部医学科地域枠や東濃地域医師確保奨学資金等貸付制度などの医学生を、初期研修医として確保に努める。 ・医師や看護師の業務負担軽減を推進するため、引き続き医師事務作業補助者、看護助手、介護福祉士などの確保に努める。 ・医師事務作業補助者について各診療科のフォロー体制をグループ化することにより、安定した業務の提供を目指すとともに雇用の確保に努める。また、院内研修会の実施、院外の研修会等への参加支援を通じ、職員の資質向上を図り、さらなる医師の負担軽減を目指す。本年5月の医療総合情報システム（以下「電子カルテシステム」という。）の更新整備後も円滑に診療のサポートができるよう十分な操作研修を実施する。 ・仕事と家庭を両立させるため、育児部分休業の活用や、新築移転により定員や保育環境が拡充された院内保育施設にて夜間保育・休日保育・病児保育を引き続き実施する。 ・看護師寮等の維持管理を適切に行うほか、必要に応じて宿舍を借り上げる等により住環境、就労環境の維持改善に努める。 	<p>2 医師、看護師、コメディカル等の医療従事者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学医局との連携や代務医の招聘、医師の幹旋会社の活用により、必要な医師の確保に努めた。看護師とその他のコメディカルについては、ガイダンスでの募集活動、学校訪問、地元紙・地域情報誌への求人広告掲載、ホームページでの募集活動、インターネットの求人サイトの活用、就職準備資金等の支援制度により、医療従事者の充実を行った。 ・初期研修医のマッチングについては、医師11人の募集枠をフルマッチングすることができた他、医療事務作業補助者、看護助手、介護福祉士などの採用を図り、医師や看護師の業務負担の軽減を推進した。 <p>【医療従事者数】 単位：人 (各年度末時点)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分\年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>124</td> <td>118</td> <td>123</td> <td>126</td> </tr> <tr> <td>看護師・助産師</td> <td>463</td> <td>474</td> <td>472</td> <td>484</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>149</td> <td>154</td> <td>167</td> <td>173</td> </tr> </tbody> </table>	区分\年度	H27	H28	H29	H30	医師	124	118	123	126	看護師・助産師	463	474	472	484	コメディカル	149	154	167	173		
区分\年度	H27	H28	H29	H30																				
医師	124	118	123	126																				
看護師・助産師	463	474	472	484																				
コメディカル	149	154	167	173																				

項目 No.	R1 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																							
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)																																																						
02	<p>3 医療に関する相談体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療情報に関する相談に柔軟に対応するため、引き続き地域医療連携センター内の医療連携担当と医療相談担当と医療安全部が、患者サポートカンファレンスを定期的開催し、相互の情報共有と問題点の洗い出しを行う。必要に応じて改善に向けて、院内の各部門へ問題提起を行っていく。 ・平成30年度に設置した入退院支援センターで入院決定から退院まで切れ目なく入院患者・家族への相談に対応し、患者が安心して治療に専念できるよう支援を行う。 ・患者やその家族からの医療に関する様々な相談に対し、よろず相談・かかりつけ医紹介センターを活用して、迅速に対応する。 ・岐阜県ソーシャルワーカー協会東濃支部研修会(情報交換会)に継続して参加をしていくとともに、この研修会で得られた情報を職場内で共有し患者や家族の退院調整・医療相談に活用する。また、この研修会を通じて近隣医療機関と顔の見える情報交換を行い、転院調整等に役立てる。 ・近年、緩和ケアを含め、がん患者やその家族に対応する機会が増加しているため、緩和ケアと連携しながら、患者、家族に寄り添った対応ができるよう関係職員の知識を高める等、資質の向上、相談体制の強化を図る。 ・がん患者サロンを活用し、がん患者及びその家族に対し相談を行う。 	<p>3 医療に関する相談体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者やその家族からの医療費支払いに関する各種福祉制度の活用や転院相談等の医療情報に関する医療相談の他に、受診診療科や病気などの様々な相談に対し、よろず相談・かかりつけ医紹介センターなどを活用した丁寧な相談体制で対応を可能とするとともに、岐阜県ソーシャルワーカー協会東濃支部主催の研修会に参加し相談員のスキルアップを図った結果、より多くの相談へ対応が可能となった。 <p>【よろず相談・かかりつけ医紹介件数】 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目\年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>かかりつけ医への紹介</td> <td>251</td> <td>322</td> <td>423</td> <td>517</td> <td>509</td> </tr> <tr> <td>よろず相談</td> <td>1,480</td> <td>1,129</td> <td>1,434</td> <td>1,804</td> <td>2,214</td> </tr> </tbody> </table> <p>【医療相談件数】 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目\年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療相談件数</td> <td>12,303</td> <td>14,597</td> <td>15,969</td> <td>17,605</td> <td>20,450</td> </tr> <tr> <td>がん患者サロン(ほっとサロン)相談件数</td> <td>99</td> <td>55</td> <td>58</td> <td>228</td> <td>192</td> </tr> </tbody> </table> <p>【カルテ開示請求件数・開示件数】 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目\年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>請求件数</td> <td>64</td> <td>57</td> <td>61</td> <td>48</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>開示件数</td> <td>62</td> <td>42</td> <td>57</td> <td>48</td> <td>34</td> </tr> </tbody> </table>	項目\年度	H27	H28	H29	H30	R1	かかりつけ医への紹介	251	322	423	517	509	よろず相談	1,480	1,129	1,434	1,804	2,214	項目\年度	H27	H28	H29	H30	R1	医療相談件数	12,303	14,597	15,969	17,605	20,450	がん患者サロン(ほっとサロン)相談件数	99	55	58	228	192	項目\年度	H27	H28	H29	H30	R1	請求件数	64	57	61	48	34	開示件数	62	42	57	48	34	IV		<p>よろず相談及び医療相談件数の増加など丁寧な相談体制は評価できる。</p>
項目\年度	H27	H28	H29	H30	R1																																																						
かかりつけ医への紹介	251	322	423	517	509																																																						
よろず相談	1,480	1,129	1,434	1,804	2,214																																																						
項目\年度	H27	H28	H29	H30	R1																																																						
医療相談件数	12,303	14,597	15,969	17,605	20,450																																																						
がん患者サロン(ほっとサロン)相談件数	99	55	58	228	192																																																						
項目\年度	H27	H28	H29	H30	R1																																																						
請求件数	64	57	61	48	34																																																						
開示件数	62	42	57	48	34																																																						

項目 No.	R1 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																			
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)																																																		
04	<p>1 近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療構想をふまえた病病連携の推進を図るため、定期的に東濃・可児地域病病連携推進会議を開催する。 ・当院が急性期病院であることを地域の医療機関や住民に周知することにより、地域医療支援病院の指定に必要な紹介率・逆紹介率の維持・確保に努める。また、開業医の訪問活動等を通じ、当院以外でも診療可能な診療科や疾患を分析し、急性期病院としての役割を担うため、外来診療の適正化（縮小）を推進する。 ・かかりつけ医紹介センター及び多治見シャトル（病診連携システム）を効果的に活用し、開業医との連携を深める。 ・外来待ち合いスペースに設置してある「医療連携登録医情報コーナー」を活用し、登録医の情報を提供するとともに、登録医等への訪問活動を継続的に実施する。 	<p>1 近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療機関向けの講演会や、市民向けの健康づくり講座を通じて、近隣病院との役割分担の明確化と連携強化を図った。また、多治見シャトル（かかりつけ医へ患者の診療予定日をお知らせする仕組み）については、訪問活動時等におけるPR活動により、利用件数が増加した。これらの取り組みにより、患者紹介率、逆紹介率ともに高い水準を維持することができ、地域医療支援病院としての要件を満たした。 ・外来待ち合いスペースに設置してある「医療連携登録医情報コーナー」を活用し登録医の情報を提供するとともに、地域の医療機関を検索可能な専用端末を常設し、患者が地域の登録医を手軽に検索できるようになっている。 <p>【多治見シャトル利用】 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>702</td> <td>1,082</td> <td>1,626</td> <td>2,043</td> <td>2,840</td> </tr> </tbody> </table> <p>【紹介患者のうち医療連携予約の割合】 単位：%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>58.8</td> <td>61.2</td> <td>63.7</td> <td>67.0</td> <td>78.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>【紹介率・逆紹介率】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分\年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率（単位：%）</td> <td>65.7</td> <td>75.7</td> <td>76.2</td> <td>75.1</td> <td>73.4</td> </tr> <tr> <td>紹介実件数（単位：件）</td> <td>22,506</td> <td>22,553</td> <td>22,651</td> <td>22,632</td> <td>20,677</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率（単：%）</td> <td>77.3</td> <td>86.2</td> <td>88.0</td> <td>89.2</td> <td>101.2</td> </tr> <tr> <td>逆紹介実件数（単位：件）</td> <td>17,796</td> <td>17,325</td> <td>17,437</td> <td>18,246</td> <td>19,996</td> </tr> </tbody> </table>	H27	H28	H29	H30	R1	702	1,082	1,626	2,043	2,840	H27	H28	H29	H30	R1	58.8	61.2	63.7	67.0	78.4	区分\年度	H27	H28	H29	H30	R1	紹介率（単位：%）	65.7	75.7	76.2	75.1	73.4	紹介実件数（単位：件）	22,506	22,553	22,651	22,632	20,677	逆紹介率（単：%）	77.3	86.2	88.0	89.2	101.2	逆紹介実件数（単位：件）	17,796	17,325	17,437	18,246	19,996	IV		<p>多治見シャトルなど独自の連携手段によって、地域医療支援病院としての役目を果たしている点は評価できる。</p>
H27	H28	H29	H30	R1																																																			
702	1,082	1,626	2,043	2,840																																																			
H27	H28	H29	H30	R1																																																			
58.8	61.2	63.7	67.0	78.4																																																			
区分\年度	H27	H28	H29	H30	R1																																																		
紹介率（単位：%）	65.7	75.7	76.2	75.1	73.4																																																		
紹介実件数（単位：件）	22,506	22,553	22,651	22,632	20,677																																																		
逆紹介率（単：%）	77.3	86.2	88.0	89.2	101.2																																																		
逆紹介実件数（単位：件）	17,796	17,325	17,437	18,246	19,996																																																		

項目 No.	R1 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																													
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)																																																												
		<p>【高度医療機器利用状況】 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機器名\年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>C T</td> <td>762</td> <td>887</td> <td>924</td> <td>892</td> <td>1,031</td> </tr> <tr> <td>M R I</td> <td>628</td> <td>580</td> <td>666</td> <td>612</td> <td>607</td> </tr> <tr> <td>R I</td> <td>137</td> <td>128</td> <td>128</td> <td>130</td> <td>158</td> </tr> <tr> <td>P E T</td> <td>60</td> <td>57</td> <td>58</td> <td>39</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>骨密度</td> <td>46</td> <td>63</td> <td>66</td> <td>76</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>1,633</td> <td>1,715</td> <td>1,842</td> <td>1,749</td> <td>1,931</td> </tr> </tbody> </table> <p>【開放型病床利用】 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分\年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医科</td> <td>13</td> <td>21</td> <td>50</td> <td>26</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>歯科</td> <td>26</td> <td>22</td> <td>24</td> <td>24</td> <td>29</td> </tr> </tbody> </table>	機器名\年度	H27	H28	H29	H30	R1	C T	762	887	924	892	1,031	M R I	628	580	666	612	607	R I	137	128	128	130	158	P E T	60	57	58	39	50	骨密度	46	63	66	76	85	合 計	1,633	1,715	1,842	1,749	1,931	区分\年度	H27	H28	H29	H30	R1	医科	13	21	50	26	11	歯科	26	22	24	24	29			
機器名\年度	H27	H28	H29	H30	R1																																																												
C T	762	887	924	892	1,031																																																												
M R I	628	580	666	612	607																																																												
R I	137	128	128	130	158																																																												
P E T	60	57	58	39	50																																																												
骨密度	46	63	66	76	85																																																												
合 計	1,633	1,715	1,842	1,749	1,931																																																												
区分\年度	H27	H28	H29	H30	R1																																																												
医科	13	21	50	26	11																																																												
歯科	26	22	24	24	29																																																												
09	<p>1 医学生、看護学生やコメディカルを目指す学生の実習受入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学生の学外実習及び見学を積極的に受け入れる。 ・看護学生について、引き続き専門学校や看護大学の学生の実習を積極的に受け入れる。 ・コメディカルについても、積極的に実習を受け入れる。 	<p>1 医学生、看護学生やコメディカルを目指す学生の実習受入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学生については、名古屋大学、名古屋市立大学、岐阜大学など関連大学から実習生や見学生を積極的に受け入れた。また、看護学生やコメディカルは専門学校や大学からの実習を積極的に受け入れた。 <p>【学生の実習受入れ状況】 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分\年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医学生</td> <td>32</td> <td>16</td> <td>22</td> <td>41</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>看護学生</td> <td>541</td> <td>380</td> <td>458</td> <td>505</td> <td>481</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>51</td> <td>57</td> <td>59</td> <td>69</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>624</td> <td>453</td> <td>539</td> <td>615</td> <td>596</td> </tr> </tbody> </table> <p>【医学生の見学受入れ状況】 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>32</td> <td>67</td> <td>92</td> <td>108</td> <td>64</td> </tr> </tbody> </table>	区分\年度	H27	H28	H29	H30	R1	医学生	32	16	22	41	52	看護学生	541	380	458	505	481	コメディカル	51	57	59	69	63	合 計	624	453	539	615	596	H27	H28	H29	H30	R1	32	67	92	108	64	III		看護学生の受け入れ数の増加に向けた取組を強化されたい。																				
区分\年度	H27	H28	H29	H30	R1																																																												
医学生	32	16	22	41	52																																																												
看護学生	541	380	458	505	481																																																												
コメディカル	51	57	59	69	63																																																												
合 計	624	453	539	615	596																																																												
H27	H28	H29	H30	R1																																																													
32	67	92	108	64																																																													

項目 No.	R1 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証													
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)												
14	2 大規模災害発生時のDMATの派遣 ・大規模災害時にも迅速に対応できるようDMATについては、2チーム体制を維持していく。 ・大規模災害時において精神医療活動を行う災害派遣精神医療チーム (DPAT: Disaster Psychiatric Assistance Team) については、1チームを編成し、派遣できる体制を維持していく。	2 大規模災害発生時のDMATの派遣 ・DMATについては、2チームを編成し、災害派遣精神医療チーム (DPAT: Disaster Psychiatric Assistance Team) については、医師2名を指定するとともに1チームを編成して応援体制を維持した。 ・令和2年2月に新型コロナウイルス感染に伴うダイヤモンド・プリンセス号下船者への検疫活動支援等のためDMATを派遣した。	IV		ダイヤモンドプリンセス号へのDMAT派遣は、早い時期での行動であり、評価できる。												
17	2 各種業務のIT化の推進 ・職員向けのIT研修について、より多くの職員が業務に支障の無い時間帯に受講できるようWeb教育サービスの導入を検討する。 ・電子カルテシステムの更新に際し、必要な端末等を一新するとともにログイン時における生体認証を採用し、情報セキュリティ対策を向上させる。また、特定の診療科における独立したシステムを集約し、電子カルテ端末上で操作できるよう整備を行い情報共有の合理化を図る。 ・新任者等に対する電子カルテ端末の操作トレーニングが行えるよう電子カルテトレーニングルーム (仮称) を整備する。 ・ベッドサイドで患者情報の入力や共有が可能なピクトグラム機能付き床頭台を導入し、電子カルテシステムと連携させることで、情報入力作業を簡簡化させ、看護師の業務負担軽減を図る。	2 各種業務のIT化の推進 ・新医療総合情報システム (電子カルテ) が稼働し、ログイン時の指静脈による認証を導入したことで、セキュリティを向上させた。また、内視鏡情報管理システムや分娩監視システムなど特定の部門で専用端末により使用していたシステムを電子カルテ端末で参照できるように集約化・連携を促進した。 ・ベッドサイドで患者情報の入力や共有が可能なピクトグラム機能付き床頭台を導入し、電子カルテと連携させることで、情報入力作業を簡素化し、看護師の業務負担の軽減を図った。	IV		ITの活用により、セキュリティの向上、システムの集約化と連携を促進しているが、他院のモデルとなるよう、さらに努力されたい。												
26	予算 (人件費の見積含む)、収支計画及び資金計画 「2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組」で定めた計画を確実に実施することにより、業務運営の改善及び効率化を効果的に進めるなどして、経常収支比率100%以上及び職員給与費対医業収益比率を50%以下とすることを旨とする。	予算 (人件費の見積含む)、収支計画及び資金計画 ・給与費及び材料費の増により、経常収支比率95.5%となった。職員給与費対医業収益比率は目標の50%以下を上回ったため、業務の効率化や医業収益の更なる増収を目指していく。 【経常収支比率・職員給与費対医業収益比率】 単位: % <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>区分\年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経常収支</td> <td>100.5</td> <td>100.7</td> <td>102.0</td> <td>100.2</td> <td>95.5</td> </tr> </tbody> </table>	区分\年度	H27	H28	H29	H30	R1	経常収支	100.5	100.7	102.0	100.2	95.5	II		新規入院患者の減少の原因を詳細に分析し、対策を講じていただきたい。
区分\年度	H27	H28	H29	H30	R1												
経常収支	100.5	100.7	102.0	100.2	95.5												

項目 No.	R1 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価					評価委員会の検証																									
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 					自己 評価	論 点	検 証 (案)																							
		職員給与費	51.5	51.7	51.0	52.5	54.4																									
27	<p>※ 職員の就労環境の向上</p> <p>1 職員の就労環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員募集や再雇用制度などを活用した職員数の確保や、育児部分休業の活用など仕事と家庭を両立させるための柔軟な勤務時間体制の推進により、職員のライフスタイルにあわせた働きやすい環境づくりに努め、離職防止を図る。 ・平成30年度に設置した「働き方改革会議」を中心に適正な人員配置等を行い、時間外勤務の縮減や有給休暇の取得促進を図り、長時間労働の環境改善と健康障害の防止を推進する。 ・職員食堂にて、新メニューを考案・提供する等、福利厚生充実を図る。 ・WLB（ワークライフバランス）休暇の運用を見直して職員への周知を徹底し、有給休暇の取得促進を図る。 ・院内売店を本年10月にフランチャイズ方式のコンビニエンスストア化し、職員の利便性向上を図る。 ・職員の福利厚生充実に向け、継続的に他院の状況や職員ニーズの把握等に努める。 ・職員相談支援室を新設し、専任の相談支援担当（非常勤）を配置のうえ、障がい者を含めた職員に対する相談支援業務を進める。 	<p>1 職員の就労環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度に新設したワークライフバランス休暇（特別休暇）は、職員への周知と取得促進を図るため、年次有給休暇に加算する運用変更を行うことで、休暇を取りやすくした。 ・福利厚生では、職員食堂における特別メニュー、イベントメニューを企画するなどメニューの充実に努め、食堂利用者が増加、院内売店は、フランチャイズ方式のコンビニエンスストア化により利便性の向上を図った。 ・職員のワークライフバランスや各種ハラスメント等に対する相談機能を強化するため職員相談室の設置し、201件の相談に対応した。【再掲：No.17】 <p>【有給休暇取得率】 単位：％</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分\年度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年次休暇</td> <td>27.5</td> <td>25.9</td> <td>25.5</td> <td>44.4</td> </tr> <tr> <td>特別休暇</td> <td>87.6</td> <td>83.9</td> <td>90.4</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>※R1年度に特別休暇（WLB休暇）を年次休暇に加算</p> <p>【育児部分休業及び育児短時間勤務利用者数】 単位：人（各年度末時点）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分\年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用者数</td> <td>27</td> <td>29</td> <td>35</td> <td>32</td> <td>39</td> </tr> </tbody> </table>	区分\年度	H28	H29	H30	R1	年次休暇	27.5	25.9	25.5	44.4	特別休暇	87.6	83.9	90.4	-	区分\年度	H27	H28	H29	H30	R1	利用者数	27	29	35	32	39	IV		特別休暇の運用変更など職員の就労環境の向上に向けた取組は評価できる。
区分\年度	H28	H29	H30	R1																												
年次休暇	27.5	25.9	25.5	44.4																												
特別休暇	87.6	83.9	90.4	-																												
区分\年度	H27	H28	H29	H30	R1																											
利用者数	27	29	35	32	39																											